

## 第 14 回 第 2 次日野市立図書館基本計画策定委員会 議事概要

- 日 時：平成 25 年 3 月 15 日(金) 15 時 30 分～17 時 00 分
- 場 所：市役所 庁議室
- 出席者：田中委員、野田委員、廣澤委員、山岡委員、松尾委員（委員長）、大杉委員、教育長、増子委員（副委員長）、長崎委員、宇津木委員（館長）  
（事務局）鬼倉、清水、佐々木、原、星
- 欠席者：窪川委員

### 1. 開会

- ・事務局より配布資料の確認

### 2. 第 13 回委員会議事録及び第 12 回委員会議事録(修正版)について

- ・各委員の承認を得た。

### 3. パブリックコメントの結果報告(案)について

- ・配付資料「第 2 次日野市立図書館基本計画（素案）に対するパブリックコメントの結果報告（案）」について事務局より説明。

→（事務局）連番 20「障害者サービスについて、『障害』の表記は『障がい』あるいは『しょうがい』とした方がよいのではないかと。また、『聴覚障がい』についてもひとこと触れてほしい。」というご意見について。現段階では日野市として「障害」と表記しているため、こちらを使う。ただし、見出しは、「利用しにくい」という表現に変更する。

－その他、未検討部分だった回答（案）を説明－

- ・説明の結果、各委員の承認を得た。

### 4. 計画(案)について

→（事務局）3 月 28 日の教育委員会で承認されれば、4 月 1 日発行の「広報ひの」、図書館ホームページに掲載し、計画とパブリックコメントの結果を周知する。

計画の内容は「本の力」を出発点とし、本文には年度ごとの進行表を付けている。

委員①：計画の PR は大切。ひのケーブルテレビに取材してもらいたいなどしたらどうか。完成したことで安心せずに、広く周知を。

館長：まず、図書館が計画を活用するために、職員に周知する。また、図書館協議会から意見ももらう。計画のポイントがわかるよう、概要版を作成し、配布する。

委員②：文章での情報だけでなく、視覚的に PR を行うと良い。

副委員長：ひのケーブルテレビに取材を打診したらどうか。周知するという事は、みんなの目があるということ。日野市のホームページの「日野市からのお知らせ」にも掲載を。

委員③：4 月 1 日の広報ひのへの掲載は、計画の全文を掲載するのか。

→（事務局）紙面の都合によりできないが、分かりやすく掲載する予定。

委員①：市議会議員への配布、関係各所への配布 PR を。

館長：市議会議員、部課長、学校へ配布する。市民への周知には概要版を配布する。また、計画の冊子を図書館で所蔵し、貸出も行う。

→（事務局）館報「ひろば」にも載せる。

副委員長：日本図書館協会の雑誌などでは、日野市の計画を広報するのか。

委員長：全国的には図書館のホームページで知らせる。

委員④：図書館に関心のある方へは概要版ではなく、計画全文を差し上げられないか。

館長：関心のある方へは計画全文を差し上げられるよう準備する。

委員長：それでは、この計画（案）を委員会で承認する。

—委員長から教育長へ「第2次日野市立図書館基本計画（案）」を提出—

## 5. 教育長挨拶

委員各位へ感謝申し上げます。市民の図書館への期待が伝わるものとなった。これを受け最大限努力したい。カウンター業務の大切さを再認識した。カウンターに人がいて人が案内するという。利用者の言葉を受け止め、思いを受け止める。そしてくらしのニーズを受け止める。そのことで職員は力量を高め、図書館人として育っていく。このことこそが、日野市らしさ、原点である。これからも叱咤激励をよろしく。

## 6. 委員長挨拶

1年間の議論に感謝。当初、まとまるか心配したが、市民の立場から見た図書館計画となった。「建物は作れても図書館は作れない」という建築家三上清一の言葉がある。職員をはじめとする図書館員が図書館を運営していくということである。図書館を建てる時、「基本計画」を策定することが大事で、それを基に建物を作っていく。計画はのちに見直されていけば、いつも新鮮な計画書であり続ける。職員は実施していく立場、この計画を実現してほしい。

## 7. 委員より

委員①：自殺問題に関心がある。図書館は本を通じてコミュニケーションできる場所。地味だが、コミュニティができていく。職員はやりがいを持ち、マナーにならず、広い意味での図書館の役割を果たして欲しい。

委員⑤：日野市の方針策定に関わることができてよかった。本が好きという人は多い。本を通じて成長してほしい。

委員②：良い経験だった。公共空間の在り方に興味があり、参加した。3.11の東日本大震災のことが委員会でも話し合われて良かった。「図書館の力」が実現することを期待している。

委員④：図書館に関心がある。公共施設が静的に見えていた。公共施設での人間の動きがもっと動的になればよいと思う。現代の若者の「本が読めない、探せない」が気にかかる。本と人を具体的につなげる役割も果たす図書館であってほしい。

委員③：40年前と現在の図書館はかなり違うことが分かり良かった。財政は厳しいが、知恵を絞って運営してほしい。公募委員の生の声を聞いたことが素晴らしかった。委員長が引っ張ってくれたことに感謝。

委員⑥：子ども読書活動推進計画との相互関係が分かった。子どもたちのためにも市立図書館の活動

は欠かせない。市立図書館と学校図書館の役割は異なるが、学校図書館と連携して良い活動をして行きたい。

館長：課題は山積みだが、しっかり進行管理していきたい。図書館には良い本との出会いを提供する役割がある。市民のよりどころとなるようにしていきたい。待つだけでなく、こちらから出ていきたい。

副委員長：日野という図書館だと思う。自身も図書館等で出会う本に影響を受けてきた。本との出会いを醸し出せる図書館であってほしい。日野らしさを確認してもらうため、図書館職員にはそれぞれが考える「図書館の基本」を書かせた。それがこの計画のベースになった。この計画を無にせず、計画に沿って進めてほしい。委員会をまとめた委員長に感謝。

→（事務局①）：これを出発点としたい。市民とともに図書館を作っていきたい。今後ともよろしく。

→（事務局②）：市民のよりどころでありたいと思っている。今後は未利用者の開拓が大事だと考える。これからもご協力をお願いしたい。

→（事務局③）：図書館の本来の業務であるカウンター業務を一番大事にしている。今後も気持よく利用してほしいと願う。委員各位に感謝。

→（事務局④）：市民委員の言葉が大変励みになった。これからも支援をよろしく。

→（事務局⑤）：人と本を結びつける計画になった。計画に関わられて大変勉強になった。これからも図書館を盛り立てていきたい。

コンサルタント：計画の進み具合を心配したこともあったが、一次計画よりすっきりしたものが出来たと思う。今後は、市民の皆さんと職員さんが協力して計画を推進していただきたい。

## 8. 連絡事項(事務局より)

- ・計画書が完成したら市民委員に郵送する

## 9. 閉会

以上